

# 保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2010年  
10月8日(金)  
第2号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

## 10月5日、墨田区職労 たたかう方針と体制確立 駅頭署名、反応高く、一人で75筆の人も

10月4日の東京自治労連拡大中央執行委で確認された「子ども・子育て新システムとのたたかひの行動計画」を受けて、翌10月5日、墨田区職労執行委員会は「『子ども子育て新システム』の導入を阻止し、公的保育を守る行動計画」を確認しました。

墨田行動計画では、10月14日から保育園全組合員を対象に4回のブロック懇談・学習会の開催、10・23集会への多数の参加、全保育園で保護者にチラシ配布・署名の協力を呼びかける対話運動、3万筆の署名の推進、主要駅頭での土日・平日で14回の宣伝署名活動の展開、区立直営園・委託園・私立保育園で保護者向け宣伝、11月16日の庁舎前宣伝、墨田労連・民間労組・民主団体への協力の呼びかけ、対区・区議会への要請・陳情、保育ネットワークなど保育関係団体との共同、田中委員長を闘争委員長に区職労に保育闘争委員会の設置などを掲げています。

保育園支部は、先行して署名目標を1人50筆と決め、土日の10月2日と3日、「すみだ祭り」会場の近くの錦糸町駅で署名活動をスタートさせました。区民の関心は高く両日とも200数十筆の署名が集まりました。3日の日に参加したAさんは、集合時間より前から道を歩いている人に声をかけて署名をスタートさせ、1時間後には「50筆の目標達成しました」との報告、最終的に1時間半で75筆を一人で集めました。

## 文京区職労保育学習会 組合員の約4割150人参加

### 「保護者に伝えなければ」「できることをしていく」

文京区職労保育園分会は、国が保育制度を大きく変えようとしている中で、まず知ること・学ぶことが大切だと考えて、9月22日に自治労連保育部会事務局の高橋光幸さんを講師に「保育で儲ける『新システム』の導入を許してはならない」と題する分会学習会を開催しました。この学習会には、分会員397名中今年の新人も含めて150名が参加しました。

会場一杯の参加者からは、「自分も子育てする身になって、公立保育園のありがたみをつくづく感じます。どの子ども平等に受けられる保育、又、どの子ども同じように保育してあげられる、今の認可保育園を守っていかなければならないと思いました。保護者の方にも伝えなければと思いました」「自分たちの仕事、子どもたちに直接関わってくる話なのに、いかに自分たちが内容を知らないでいたか、今日の話でよく分かった。なんてひどい内容。子ども・保育は点数をつけたり、サービスするためにするものではない。運動、私もできることをしていきたい」などの感想が寄せられました。できることからやらなくては、早くみんなに伝えなくてはとの思いがひとつになった学習会でした。

## ◎新システム/ワーキングチーム検討始まる

子ども・子育て新システム検討会議作業グループ決定に基づき、3つのワーキングチーム

(以下、WT) が設置され、9月24日に「基本制度 WT」が、29日に「こども指針 WT」が初会合を開きました。基本制度 WT は新システムの制度全体の検討を課題にしていますが、有識者、労使代表、関係団体などから選出されたメンバーは、今年2月に「新たな保育の仕組み」をとりまとめた厚労省社会保障審議会少子化対策特別部会のメンバーが多数含まれており、厚生労働官僚主導の「改革」がすすめられることが危惧されます。

第1回基本制度 WT では、各参加者(団体)の意見表明を中心に、新システムの基本設計や国、都道府県、市町村の役割(○市町村の責務、○国・都道府県の責務)について検討がされ、参加者からは基本制度案に対する賛否両論の意見が出されただけでなく、十分に時間をかけた議論を求める声も出されました。しかし、進行役を務めた小宮山厚労副大臣は「基本設計についてはほぼ了承をいただいた」として議論をまとめました。次回の日程は未定ですが、月2回の議論で1月までに法案大綱をまとめるスケジュールが示されており、強引な進行に歯止めをかける働きかけが必要になっています。

また、第1回こども指針 WT では、こども指針の基本的考え方について検討されました。今後2011年の6月まで議論を重ね、7月以降に原案を作成し、2012年3月の告知をめざすとしています。《全保連ニュースNo.383号より》

**【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。配信希望者はその旨メールで申し込んでください】**